
気持ちのあとの季節で

佐藤耕市

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気持ちのあとの季節で

【コード】

N6808D

【作者名】

佐藤耕市

【あらすじ】

血のつながらない兄妹（双子）の恋愛小説です。主人公が、12歳の時、突然母親が同学年の女の子を妹として連れてきます。そして……。

第一話（前書き）

血のつながりがないとは言っても、兄妹の恋愛を描いたものなので、
そういうものが苦手な方は、お避け下さい。

第一話

雪が、降っていた。山は今までに見たことがないくらい白くなっている、自分の息の白さに気がつかないくらいだった。下宿先に一人でたたずむ桜の木に、一年前のあの時には気づきもしなかったけど、今は雪が枝の先に積り、綺麗で儂い花を咲かせ、俺の目を奪う。そう、あの時のアイツの涙みたいに。

本命の大学に落ちて、ここに来ることが決まったのは、完全に予想外の出来事だった。模試の判定も悪くなかったし、センター試験で悲惨な点数をたたき出したわけでもなかった。でも、そんなにシヨクな出来事ではなかった。ただ、アイツと離れ離れになるということが、どういうことなのか、認識できていなかった。妹のナミは、俺が12歳の時、両親が突然家に連れてきた。ナミはその時、11歳だったけど、小6だった。つまり、俺に突然、血のつながらない双子の妹ができたということだ。俺が、4月生まれで、ナミが3月生まれだったから、妹ということになった。あの時の衝撃は、計り知れないものだったけど、泣きながら俺に、「ごめんね、いやだよ」という、ナミの姿を見ては、何も言うことはできなかった。ただ悔やむのは、その時アイツに、俺が恋愛感情を抱いてしまったことだろう。

そのあとの中学、高校と別に何もなかった。俺は普通に彼女がいたし、ナミには普通の妹として接していた。ただ、俺の一番をアイツは占領し続けたけど。そう、一番近くにいなながら、どんなことをしても届かない距離にアイツはいた。「兄妹」という肩書が、越えられない壁として目の前にあった。だから俺は、常に二番目に好きな人と付き合っていたし、この先きつと結婚するのも世界で二番目に好きな人なんだろうと確信していた。余談だけど、俺の母親が死

んだのは、ナミが来て一年後のちょうど今頃だった。でも、雪は降らず、ただ風が音をたて、ナミの鳴き声だけが聞こえていた。

そして、今から約一年前、俺の家に不合格の通知が来たその日、ナミが泣いた。嫌だ、ただそれしか言わないナミに、俺は兄として兄らしい言葉をかけてやることなどできず、ただ胸でアイツの温かさを感じていることしかできなかった。その時、アイツが一度だけ言った、「愛してるよ」という言葉、俺が一度だけ言った、「俺もだよ」という言葉が、頭を離れない。

その言葉の本当の意味を確かめないまま、俺たちは離れ離れになった。

ナミと離れ離れになって、初めて一人暮らしを始めた俺は、ものすごく苦労をした。母親が死んでから、家事のほとんどをナミがしてくれていたからだ。今では、とりあえず生活することができるようになったけど、最初の頃は困ったらすぐにナミに電話してた。ただ、そこに兄として妹を心配する気持ちもあったし、一人の男としてアイツのことを想う気持ちもあった。その下心に自分自身が気づいてからは、ナミに頼ることもなくなり、妹を心配する兄というぐらいの回数しか電話をすることはなくなっていた。

電話の回数を減らしたのにはもう一つ理由があった。付き合っていた彼女に「ヒカルってシスコンなの？」と言われたからだ。そこに、冗談としての意味合いはなく、一人の女性に対する彼女の微細な嫉妬心を感じた。彼女とは、気が合い、映画鑑賞に読書という共通の趣味があったし、精神的に彼女に救われることもあったので、別れたくなかった。ただ、彼女が二番目という事実だけは変えることができないけど。

そして、これから俺は彼女に振られるだろうと予測している。先ほど彼女から、「大事な話がある」と言われたのだ。そして、おれは家を出て、これから彼女の家に行くところだ。俺は、バイクに乗りエンジンを鳴らす。フルフェイスのヘルメットをかぶる前にもう一度だけ、雪の花をつけた桜の枯れ木を見る。少し融けて、小さくなったそれは、蕾のように見えた。これからが華の美しい蕾、しかしこの蕾は、花を咲かせることなく消えるだろう。

ただ、今はやはり美しかった。

第一話（後書き）

読んでいただきありがとうございます。
よろしければ感想をよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6808d/>

気持ちのあとの季節で

2011年1月13日07時22分発行